

黙示録20章1-6節 「千年王国」

1A 悪魔の幽閉 1-3

1B 底知れぬ所 1

2B サタン 2

3B 千年の封印 3

2A 聖徒たちの復活 4-6

1B 多くの座 4

2B 生き返らない使者 5

3B 千年の統治 6

本文

私たちは、ついに黙示録の頂点とも言える出来事、イエス・キリストの再臨の幻を前回読みました。獣、反キリストの率いる軍隊が、神とキリストに対して戦いを挑みますが、イエス様は口から出る剣をもってそれらをことごとく滅ぼされます。主の名前がいろいろ呼ばれましたが、体中に書かれていた名は、「王の王、主の主」であります。そして、それらの軍隊は殺され、獣ともう一頭の獣、すなわち偽預言者は、生きたまま火と硫黄の燃えている池に投げ込まれます。

そしてその後の話が20章に書かれています。すなわち、主イエスが地上に戻って来られ、エルサレムから世界を統べ治められる、地上における神の国を見ていきます。イエス様が、主の祈りとして「御国が来ますように。」と祈りなさいと言われた、神の御国です(マタイ6:10)。

私たちは、絶えず信仰生活と、教会生活において知っておかなければいけないのは、「国」ということです。もっと正確に言うならば、「王国」です。聖書に出てくる、神の国は、神の王国といったほうが正解です。そこに神の支配があって、権威があって、そし国の中に生きることによって、そこに秩序と平和、豊かさがあるということです。その世界に、反逆して対抗し、また模倣することによって多くの者たちを惑わし、何とかして神の働きを阻もうとしているのが悪魔であり、私たちはその相克の中に生きていけると言えます。

私たちはある意味で、永遠に神が全てを支配しているという意味では、永遠にすべてが神の国だと言えます。神が支配していない領域は何一つなく、悪魔が反逆している時さえ、その反逆をも手中に収めています。黙示録でも、サタンや悪霊どもの仕業でさえも、御使いによる鍵によってのみ解き放たれるなど、神の究極の支配から離れることは決してできません。このことを知るのは、とても大切です。なぜなら、多くの人が神と悪魔の二元論に陥って、悪魔が支配しているところには、神は関与していない、神は関与できていないと思ってしまうています。あたかも、神がおら

れないように、自分たちで悪に戦わないといけないと思いますが、そんなことはありません。主なる神は、どんな時にも御座に着いておられるのです。

そして神は、「イスラエル」という国を通して、ご自分の支配を現しました。神はアダムを造られました。そこに、エデンの園に神の支配が広がりました。しかし、彼が罪を犯したために、地は呪われたものとなりました。しかし、神はウルの町に生きるアブラムを呼び出されて、彼によって新たな民、新たな国を造ると約束されたのです。そして、アブラハムからイサク、それからヤコブが生まれ、ヤコブの家族はエジプトで増え広がり、主はシナイ山のふもとで、「あなたは宝の民になる」と約束されたのです。そして、ダビデの時代に、ダビデに対して、「あなたの世継ぎの子が永遠の国を受け継ぐ」ことを約束されました。このようにして、イスラエルという国、また民族を通してご自分の支配を明らかにしようとされました。

そして次に、教会が、神の支配される場所として現れました。新約聖書では「奥義」とも呼ばれる、「霊的な御国」です。イスラエルの民が、自分たちのメシアを拒んだために、異邦人にも救いが広がりました。アブラハムの子孫に、信仰によって連なり、神の家族として招き入れられました。ユダヤ人も異邦人も、キリストにあって一つになり、一つの国民になりました。そこには、キリストをかしらとする支配が広がっています。それが霊的な御国であり、教会であり、私たちはまさに、その現場にいます。

そして実は、永遠の昔からの神の支配には、「天」がありました。天にはいろいろな天がありますが、その中で、神の御座のある天があります。パウロはそれをコリント第二で第三の天とも呼びました。いわゆる「天国」ですね。黙示録4章において、ヨハネが天に引き上げられ、そこで神が御座に着いておられ、二十四人の長老がおり、四つの生き物が絶えず神を賛美し、礼拝していました。その天は、神のおられる御座があるところです。神は聖霊の働きを教会によって行われていますが、いつかその時の終わりが来ます。教会は地上から取り除かれ、天に引き上げられます。

そして主なる神は、ご自身の支配を地上に一気に持って来るご計画を持っておられます。天にある支配を、地にもたらずご計画です。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえと祈りなさいと言われた王国です。バプテスマのヨハネ、そしてイエスご自身が「マルコ 1:15 時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」と宣べ伝えました。イエス様は、悪霊を追い出され、病を治されました。バプテスマのヨハネが、ヘロデによって牢に入れられている時に、イエスが来るべきメシアなのかどうか尋ねましたが、イエス様は、悪霊を追い出し、病を治し、目の見えない者が見えるようになり、足なえが立ち上がることができるようになっていることを伝えなさいと言われましたね。そうです、預言者たちが、メシアが来たら、地上はこのようになると伝えていたことが、イエス様の宣教の働きの中で広がっていたからです。

しかし、イエス様はユダヤ人たちに拒まれて、ついにローマの十字架に付けられました。しかし、このことも神の定めによって起こったものであり、ユダヤ人の指導者らが捨てた石が、礎の石になったということです。罪の贖いをするいけにえになってくださった、ということです。けれども、よみられたことによって、ご自身が確かに神の御子、キリストであることをお示しになりました。それで、イエス様が昇天される前に、弟子たちが、「使 1:6 そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」と尋ねました。いつとか、というのは、父なる神が定められていることだ、けれども聖霊があなたがたに注がれる、そしてわたしの証人となると言われました。つまり、イエス様はイスラエルが再興すること自体を否定しておられないのです。

そして、約束とおりに聖霊が降り注ぎました。するとペテロは、それはヨエルの預言の成就だということで、御霊が終わりの日に注がれて、それから大患難がり、けれども主の御名を呼び求める者は救われると言ったのです。また、「使 3:21 このイエスは、神が昔からその聖なる預言者たちの口を通して語られた、万物が改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」とペテロは話しており、万物の改まる時を彼は既に話しています。

つまり、この地上が改まるということです。被造物が神の栄光の自由の中に入るということです。アダムが罪を犯した時以来、呪われていた地が贖われて、御心のままに祝福されるということです。聖書の中には、自分の魂は救われたのだから、死んで天国に入って、それで終わりだという考えがありません。必ず、主と共に栄光の姿で戻って来て、キリストと共に御国を相続するのです。これが、これから見ていく、千年間におけるキリストと共に統べ治める、いわゆる千年王国です。

ですから、私たちはこの地上のことについて、関心を持っています。そこには、主ご自身の呻きがあり、私たちの霊は呻いています。そして被造物全体が呻いているのです。「ロマ 8:23 それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだを贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。」今は、キリスト者、その教会を通して御霊の現れがありますが、初穂とあるとおりに、ごく一部でしかありません。しかし、主は必ずご自分が戻って来られることによって、御霊が完全に現れてくださるのです。

ですから、神の国は、元々、天にあり、そしてそこから治めている永遠の国があります。それがエデンの園で地上に現れましたが、アダムが罪を犯して損なわれました。しかし、神はアブラハムを召されて、イスラエルという国を立てられます。それが、異邦人も同じ祝福にあずかる教会があります。そして主が再び来られて、アダムの罪によって損なわれたものがすべて回復する、メシアの王国があります。最終的に、この天地は過ぎ去り、新天新地が現れ、そこに天の支配が、エルサレムとして降りて来るという御国があります。それは黙示録 21 章以降に書かれています。

1A 悪魔の幽閉 1-3

1B 底知れぬ所 1

¹また私は、御使いが底知れぬ所の鍵と大きな鎖を手にして、天から下って来るのを見た。

御使いが天から下って来ています。底知れぬ所について、その元々の意味は「底なしの縦穴」というような意味合いです。底知れぬ所については、既に 9 章に出てきていました。「9:1 第五の御使いがラツパを吹いた。すると私は、一つの星が天から地に落ちるのを見た。その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられた。」そして、いなごのようなものが地上に出て来て、さそりのような毒をその尾に持ち、五カ月の間、死になくても死ねない苦痛を味わうという裁きがありました。そして、その底知れぬ所には王がおり、その王が、ヘブル語でアバドン(破壊)、ギリシア語でアポリュオン(破壊者)と呼ばれているとあります。これが悪魔ですね。このようにして底知れぬ所は、悪霊どもが縛られている所であり、最終的な裁きを受けるのを待っているところと言えます。ルカによる福音書には、墓場にいた男が、レギオンに取りつかれていて、「ルカ 8:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行けと自分たちにお命じにならないようにと懇願した。」と叫んでいましたね。

そして今は、悪魔自身が底知れぬところに縛られます。「鍵と大きな鎖」を持っているとあります。鍵というのは、そこに対して権限と力を持っていることです。そして、鍵だけでなく大きな鎖も委ねられていますので、サタンが本当に何もできないように、拘束するということを意味しています。

ですから、千年王国は、悪魔の誘惑がないところと言えます。人が罪を犯す時、それはその人の肉、そして神に反抗する世の制度、それから悪魔の誘惑があって成り立ちます。けれども、その重要な悪魔の誘惑がなくなります。世の制度も、悪魔がもはや支配しなくなるので、神の支配と世界の秩序が一致します。ちょうど、それはほとんど全く、霊的に無菌状態で生きているような至福の時です。そこは正義と平和に満ちます(イザヤ 9:6-7)。動物界には、弱肉強食がありません(11:6-9)。環境が変化して、はるかに心地よいものとなります(51:3)。それゆえ長寿が約束されています(65:20)し、健康も約束されています(33:24)。そして戦争がなくなる、農作物の収穫が増える、喜びに満ちている。人々が世界中からエルサレムでイエス様を礼拝しにくるなど、数多くの約束、預言者たちが預言したことが実現するのです。

2B サタン 2

²彼は、竜、すなわち、悪魔でありサタンである古い蛇を捕らえて、これを千年の間縛り、^{3a}千年が終わるまで、これ以上諸国の民を惑わすことのないように、底知れぬ所に投げ込んで鍵をかけ、その上に封印をした。

悪魔について、12 章において登場し、悪魔がいたので獣、反キリストがいて、そしてその反キリストの代弁者として、もう一匹の獣、偽預言者がいたことを思い出してください。黒幕は、悪魔であ

りました。12 章にあったように、悪魔のことを、サタン、竜、そして古い蛇と言い換えています。悪魔は、「敵対する者」という意味です。竜は、悪魔の凶暴な性質を表しています、そして、古い蛇は、もちろん創世記 3 章でエバを惑わした蛇、惑わす者ということです。そしてサタンは、告発する、中傷者という意味があります。つまり、神の国において、敵対者、凶暴な振る舞い、惑わし、そして中傷がなくなるということです。

そして、底知れぬ所を閉じて、封印するのですが、絶対にそこから出られないようにします。そして、千年の間、諸国の民を惑わすことがないようにします。ところで、なぜ千年の間なのか？これを比喩的なものであると解釈する人たちもいます。一日は千年のようであり、千年は一日のようであるから、これは文字通りではなく、比喩なのだと思えます。しかし、私は文字通りであると見ます。なぜなら、創世記 5 章のことを思い出すからです。アダムが罪を犯したことによって、彼らが永遠に生きられないようになりました。神の御国は彼が罪を犯したことによって、損なわれてしまいました。それで、アダムは 930 年行きました。千年に、七十年足りない年齢で死にました。その後の息子たちでは、メシェラが 969 年行きましたが、千年に満ちなかったのです。主は、このことを意識しておられるのでしょうか、アダムによって損なわれた御国における命を、ここで取り戻すということ、回復させるということがあるでしょう。

3B 千年の封印 3

^{3b} その後、竜はしばらくの間、解き放たれることになる。

なぜ、解き放されなければいけないのか思うでしょう。第一、なぜ神が全能者であるなら、悪魔をこの世にはびこらせるのをお許しになったのか、と思うでしょう。悪魔さえいなければ、今の世界はこんなにひどくならなかったのです。先にお話ししましたように、悪魔も実は神のプログラムの中にしっかりと組み込まれています。悪魔は神に反抗しながら、実は神に利用されている存在でもあるのです。そのことを知るのに最適な教材はヨブの話です。彼は裕福で、かつ神を恐れている人でしたが、あるとき、悪魔が神の前で、「ヨブは祝福されているから、あなたを恐れているのですよ。もし祝福が剥奪されたら、たぶんあなたを呪うでしょう。」そこで神は、「よろしい、ではやってみなさい。けれども彼のいのちを奪ってはならない。」と言われました。それで彼は子供たちを失い、財産を失いました。けれども、「ヨブ 1:21 そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。【主】は与え、【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」」と言いました。彼は、財産がなくても主を恐れていることが証明されました。

このように誘惑や試練が置かれることによって、私たちが本当に主を愛しているのかそうでないのかが分かります。エデンの園の中に、なぜ善悪の知識の木が置かれたのか？それは、他に魅力的な選択肢が与えられていなければ、「私は主が言われたことを守ります」という愛による決断ができないからです。神は人をご自分のかたちに造られました。神は自由意志をお持ちで、自己

決定をする方であられます。それゆえ、私たちも自由意志が与えられ、自己決定ができるように造られています。それゆえ、その自由意志を神に背を向けるようにも用いることができ、それゆえ今日まで続く、世界における悲惨が途絶えることはないのです。したがって、悪魔の誘惑によって、私たちは自分が本当に神を愛しているのかそうでないかが試されます。

2A 聖徒たちの復活 4-6

1B 多くの座 4

⁴ また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たちがいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。

キリストが地上に来られて神の国を立てられることによって、聖徒たちの復活を完成されます。被造物を回復し、復活した者たちにその国を受け継がせます。

アダムが罪を犯したことによって、人は永遠に生きるようにされていたのに、そうではなくなりました。罪が入り、死が入りました。しかしイエス様は、復活のいのちとなってくださり、信じる者もよみがえるようにしてくださっています。パウロは、死者の復活の順番について話しています。第一コリント 15 章 23 節です。「しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。」イエス様が、信じる者たちに先立ってよみがえられました。それまで、預言者エリヤやエリシャの働きによって生き返った者、イエスさまの地上での働きによって生き返った者はいますが、それはみな蘇生であり、現在の肉体が生き返っただけで再び朽ちてしまいます。けれども、イエスさまは朽ちない体をもってよみがえられました。同じように、朽ちない栄光のからだをもって永遠に生きる初穂となってくださったのです。

ところで、旧約時代の聖徒について、いつ復活するかについては意見が分れます。一つは、主が復活された時に、マタイ 27 章にあるように、復活したということです。「マタイ 27:51-53 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていて多くの聖なる人々のからだが生きた。彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。」エペソ 4 章には、イエス様が天に昇られる時に、多くの捕虜を連れて行かれた、ということを使徒パウロは言及しています(4:8-9)。

もう一つは、大患難時代が終わって、イエス様が再臨された時であるとします。「ダニエル 12:1-2 その時、あなたの国の人々を守る大いなる君ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。しかしその時、あなたの民で、あの書に記されている者はみな救われる。ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。ある者は永

遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。」

旧約時代の聖徒については意見が分かれるのに対して、はっきりしているのは教会です。イエス様が復活の初穂となられ、イエス様が天から戻って来られる時に、教会が携挙する時に、既に死んだ者たちはよみがえり、生き残っている者たちは一瞬にして変えられて、引き上げられます。エノクのように、そのまま天に移される者たちもいるということです(1テサロニケ 4:15-17)。さらに、今ここに書いてあるように、患難期に殉教した者たちが、主が地上に戻って来られてから、よみがえります。

そして今読んだ箇所には、二つのグループ、厳密に言うならば三つのグループに分かれます。初めに、「多くの座を見た」とありますね。これは教会のことです。イエス様が、ラオディキアにある教会に対して、「3:21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせる。それは、わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。」と約束されています。そしてパウロは、コリント第一にてこう言っています。「6:2-3 聖徒たちが世界をさばくようになることを、あなたがたは知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるのに、あなたがたには、ごく小さな事件さえもさばく力がないのですか。あなたがたは知らないのですか。私たちは御使いたちをさばくようになります。それなら、日常の事柄は言うまでもないではありませんか。」イエス様が再臨されて神の国を立てられてから、クリスチャンはイエス様と同じように裁きの座に着きます。

そしてもう一つのグループは、「また私は、イエスの証しと神のことばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。」とあり、患難期に殉教した人々です。「6:9-10 子羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てた証しのゆえに殺された者たちのたましいが、祭壇の下にいるのを見た。彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさないのですか。」」そして、獣の国が患難期半ばから始まりますが、その時に刻印が押されるのを拒めば、必ず殺されます。そうした者たちが、今ここで、よみがえっているのです。

2B 生き返らない死者 5

⁵ 残りの死者は、千年が終わるまでは生き返らなかった。これが第一の復活である。

「第一の復活」とあります。これは、神を信じ、イエスを信じた者たち、聖徒たちの復活です。イエス様が初穂であり、そして旧約の聖徒たち、そして教会、そして患難期において神を信じ、イエスを証する聖徒たちです。これをもって第一の復活が完成します。主が「ヨハ 5:28-29 このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞く時が来るのです。そのとき、善を行った者はよみがえっていのちを受けるために、悪を行った者はよみがえってさばきを受けるために出て来ます。」と言われましたが、この、よみがえっていのちを受けるということが完成するのです。

そして、第二の復活と呼んでよいでしょうか、それもあります。不信者の復活です。それは次回、11 節以降の、最後の審判の時に甦るところに出てきます。「残りの死者は、千年が終わるまでは生き返らなかった。」というのは、不信者たちのことで、彼らは死んで陰府に下っています。千年の間、その状態にあるという事です。

3B 千年の統治 6

⁶ この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対して、第二の死は何の力も持っていない。彼らは神とキリストの祭司となり、キリストとともに千年の間、王として治める。

第一の復活にあずかる者が「幸いな者、聖なる者」であるとありますが、それはキリストに似た者とされているからです。罪のないからだを持っています。そして「第二の死は、何の力も持っていない」とありますが、第二の死については 14 節に書かれていますので、そのとき詳しく説明します。第二の死があるのですから第一の死もあるのですが、それは肉体の死です。第一の死については、信者として経験します。しかし、第二の死、永遠の死については力を持っていません。これこそ、私たちにとっての慰めです。これこそ、私たちが迫害を受け、たとえ殉教しようとも、それでも神を選び取る力になります。「ルカ 12:4-5 わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、その後はもう何もできない者たちを恐れてはいけません。恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺した後で、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。」

そして「彼らは神とキリストの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。」とあります。教会と、患難時代に殉教した人々が祭司となり、また王となります。そして教会にも、この約束が 1 章において与えられていました。「1:6 また、ご自分の父である神のために、私たちが王国とし、祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくあるように。」千年王国の時には、王の王、主の主であられるイエス・キリストが世界を統治して、そして信者たちが任されて、割り当て地が与えられます。そこで、大患難時代を通り抜けて生き残った人々を、祭司として王として導くのです。

そして、これが本質的に、「御国を受け継ぐ」ということなのです。私たちが神の子になるということは、神の相続人になるということであり、御国を受け継ぐということでもあります。「1:10 時が満ちて計画が実行に移され、天にあるものも地にあるものも、一切のものが、キリストにあって、一つに集められることです。」ですから、私たちが今、行なっていること、それは御国に入るための準備と言って良いでしょう。地上にあるものの良き管理者になるということなのです。